

あなたの手を温める“相棒” ～ニセコでスキーグローブを作る～



鎌田 諭さん (39)
KAMATA SATOSHI
ニセコグローブ製作所 代表

自分の手にジャストフィットするグローブがあるらしい…

北海道の冬、体が凍るような冷たい風が吹きつけます。手袋をしても指先まで温まらない…。サイズがピッタリじゃない…。そんな経験はないでしょうか。そんなあなたに必見のアイテムが見つかりました。その名も「ニセコグローブ (NISEKO GLOVE)」！自分の手にピッタリサイズ、なんとエゾシカの革でできているとっても温かいグローブです。スキーをこよなく愛するニセコ在住の職人さんの手から誕生しました。一体どんなグローブなのでしょう。

ニセコグローブ製作所に行ってみた

北海道虻田郡ニセコ町にネイビーカラーの小さな工房があります。2022年8月に開業したスキーグローブの製作所です。建物の2階では手作りの棚に飾られたカラフルなスキーグローブとその生みの親である鎌田諭さんが出迎えてくれます。ここは、エゾシカの皮から1つずつ丁寧に縫われたスキーグローブを製作・販売しているお店。部屋の奥にはグローブを作るための工房も備えられています。この「ニセコグローブ製作所」で、どんなスキーグローブを製作しているか覗いてみましょう！



【ニセコグローブ製作所】

代表：鎌田諭

住所：北海道虻田郡ニセコ町
字本通 77 番地 2 階

電話：0136-55-7907

メール：info@niseko-glove.com



ニセコグローブ製作所
HP

ニセコグローブってなんだろう

素材はエゾシカの革

ニセコグローブは、革グローブ本体の「**アウターグローブ**」と内側の保温用手袋「**ライナーグローブ**」が独立しており、これらは着脱できるようになっています。革グローブ本体の生地はなんと「**エゾシカの革**」！鎌田さんによれば、「素材としてのしなやかさとか、耐久性、その人にフィットしていく性質とか、そういったものを含めてもいい素材」とのこと。ちなみに、ライナーグローブの部分は化繊でできています。以前、化繊メーカーに勤めていた経験もあり、北海道のエゾシカとかつての専門職を組み合わせた独自のグローブ作りを行っています。

鎌田さんのグローブ作り

ニセコグローブ製作所では**受注生産**で販売を行っています。既製品じゃなくてオリジナルだからこそ購入する人も多い中、オーダーメイドのグローブは今まで存在しませんでした。既製品では自分の手に馴染まないこともあります。オーダーメイドであれば自分の手に合わせることが可能です。鎌田さんのグローブ作りはなんと独学！スキー用の革手袋の作り方を探してもどこにも見つからなかったと言います。そこで鎌田さんは既製品のグローブを分解して新しい型を作り、自分で縫っては改良を繰り返しました。そしてグローブ作りにはミシンを使用。いくつもの試作を経て、**2023年8月**から**一般受注販売がスタート**しました。



革の色落ちもまた一興

ニセコグローブ製作所では、なめされたエゾシカの革を取り寄せて使用しています。植物由来で環境負荷が少ないといわれている「**ベジタブルタンニンなめし**」です。

革の着色は業者さんにお任せ。なめされた革を加工する行程の中で「**染料**」を入れて着色しています。その理由は、タンニンなめしは顔料と相色が悪いから。しかし、持ちが良く色の変化が少ない顔料に対して、染料は時間の経過で色が落ちてしまいます。それでも鎌田さんは環境負荷を考えつつ、革の色の変化を楽しんでもらいたいという思いから染料での着色を選びました。



傷もデザインの一部

完成品のグローブをよく見てみると、革の表面に傷の痕が残っています。これは何でしょうか。

「野生の動物の革なので、最初から痕がついていたり、傷がついているのが多いんですよね。生きている証っていうですかね。こういうのはグローブとして性能が落ちないところで、ある意味デザインの一部にして使わせていただいています。」

革の傷もグローブのオリジナリティを出すポイントだったんです。お客さんの中には、傷のついた部分をあえて求める人もいます。全部完璧よりも面白みがあるのだとか。



自分好みにカスタマイズ

革グローブ本体は自分好みにカスタマイズできちゃいます。ニセコグローブ製作所では「型のタイプ」、「カフ（手首）のタイプ」、「カラーパターン」が選べます。

型のタイプを選ぼう

「型のタイプ」では 3 種類を用意しています。①「ミトンタイプ」、②「5 本指タイプ」、③「3 本指タイプ」があります。「ミトンタイプ」は指先の動かしにくいさがありますが、3 種類の中で一番暖かいタイプ。「5 本指タイプ」は指先を動かせられるので自由度が高いタイプ。「3 本指タイプ」はミトンと 5 本指タイプのそれぞれ良い所を組み合わせた中間タイプ。どの良さを選ぶかは自分次第です。



カフはどっち派？

グローブの裾（手首の部分）をウエアの外に出すのか、それともウエアの中に入れるのか、手首の感覚は人それぞれ。グローブの裾（＝グローブカフ）の長さも選べちゃうのがニセコグローブのこだわりポイント。グローブカフをウエアの袖に被せるタイプの「ロングカフ」と、ウエアの袖の中にグローブカフを入れる「ショートカフ」の 2 種類が選べます。



カラーパターンで手元をオシャレに！

ニセコグローブでは 7 種類のカラーを用意しています。色の種類はヌメ（ナチュラル：天然）、ホワイト、ブラック、グリーン、ネイビー、ブラウン、レッドがあります。シンプルに単色にしてもよし、部分的に異なる色を選んでカラフルにするのもよし。自分好みの色をチョイスできるのももちろん、それぞれの色を組み合わせでアレンジすることもできちゃいます。

「オーダーメイドできるグローブ屋さんができたよって、みんなにとっては新しい出来事だったみたいで、それで噂を聞いて、自分もちょっとカスタマイズしてみたいですって。」



長持ちの秘訣は修理のしやすさ

ニセコグローブは長く使ってもらえるように修理しやすい構造になっています。

「修理ができれば経済的にも助かる人がいると思うし、“相棒”ですから。長く使いたいわけじゃないですか。」

何年もかけて買ってもらいたいという思いはもちろん、ニセコには環境に配慮する人が多いことも鎌田さんがリアにこだわる理由。環境を考える人々のニーズにも応えつつ、自分の“相棒”として育てていける仕組みがニセコグローブには込められています。

なぜグローブ作りを始めたのか

東京で会社員

→ニセコで起業&グローブ作り

鎌田さんは北海道大学で基礎スキー部に熱中するほど、学生時代もスキーが大好きでした。大学を卒業後、東京へ就職して会社員として働きました。当時からものづくりをしたいという気持ちがあり、化繊メーカーに勤務しました。

山登りも好きだった鎌田さんは土日の休日は山へ。しかし、なんのために東京に住んでいるのか、そう疑問を抱き、出身の秋田か北海道に戻りたいと考えながら仕事をしていました。東京の独身寮で生活していた鎌田さんが30歳になった頃、仲間たちが新しい生活を始め、1人で考える時間が増えたことで自分の人生を見直します。

「移住しよう、どうせ移住するなら自分で仕事を立ち上げてやりたい。」

鎌田さんは移住と起業をセットで考え、ついに田舎に行くことを決意。34歳、35歳の時にスキーグローブの事業のアイデアを思いつき、**大好きなスキーができるニセコ町を選びました。**ところが起業するには準備が必要です。2020年の9月にニセコ入りをし、ニセコの地域おこし協力隊に入ってグローブ作りのための準備とコネクション作りから始めたのでした。

「ものづくりをやりたいというのはずっとあって、起業とものづくりがテーマだった。」

なぜエゾシカなのか

起業から4～5年前にグローブ作りを始めようと思った鎌田さんは、**北海道が抱える課題にも取り組みたい**という思いからエゾシカに着目。たくさんあるグローブメーカーの中で、グローブに特徴を出すために**日本原産の素材としてエゾシカを選んだ**ことも理由の一つでした。そこで現地ハンターさんと繋がってエゾシカの革を譲り受け、実際に試し縫いして使ってみたところ、意外と使えることがわかり商品化へ。最初は半信半疑で使い始めたエゾシカの革でしたが、想像以上に魅力的だと気づき、現在もエゾシカの革一本でグローブを作っています。

板でもなく、ウェアでもなく、スキーグローブ!

自分で一から起業するなら「ものづくり」だと決めた鎌田さん。スキーグローブを選んだ理由についても聞いてみました。

スキー板を作るにはそれなりのハードとノウハウが必要です。たくさんの機械を入れるなど、とてもできるものじゃないと考えました。スキーウェアも小さくできるものではありません。その中で「**手袋は自分でも縫えるじゃないか**」と気づいた鎌田さんは、小さく始めることができるグローブ作りを一つのチャンスだと捉えました。自身でもグローブのフィット感が足りないと感じていた鎌田さん。「もっと良いものがあるんじゃないか」という課題意識も抱えていました。

そして、手袋の産地は香川県。その中の一部のメーカーでスキーグローブも作っています。しかし、グローブ専業で作っている企業は日本にほとんどありません。あつたとしても雪がほとんど降らない場所です。そこで鎌田さんは、**北海道にもグローブメーカーがあってもいいはずだ**という思いが強まり、北海道でグローブ製作所を立ち上げることを考えました。



「スキーグローブはスキーするところで作るべき。そっちの方が面白いでしょ。お客さんだってストーリーがつながるじゃない。」

スキーで繋がるコネクション

鎌田さんは冬になると、毎日のようにスキー場に出かけます。グローブのテストも兼ねて自分で使ったグローブを着けてスキーを楽しむそうです。

「冬は朝の 8 時半からスキー場が開くので、1 時間から 2 時間滑って戻って来て、昼前から仕事をしています。それも週 6~7 で (笑)。」

鎌田さんは「結構色んな層の人がスキー楽しんで、スキーやってると色んな人とコネクションというか、**人脈が広がるんですよね。スキー一緒にやってるだけで。それが結構面白くて。**(中略)スキーがあるから全然関係ない業種、職種を飛び越えて繋がれる。」と語ります。現在のニセコグローブ製作所のスタッフは鎌田さんのみ。1 人ではアイデアの限界もあります。しかしスキー場に行けばアイデアを供給してくれる人とたくさん出会い、中にはニセコグローブの使い手も。スキーヤーたちにグローブの使い心地について感想を聞きながら、グローブ製作の品質向上に役立っているのです。

「オーダーメイドだから人と繋がれる。人と繋がれて自分もハッピーだから。」

ニセコグローブ製作所のこれから

2023 年の 8 月に本格的に受注販売を開始したニセコグローブ製作所。その年の 9 月下旬には注文が殺到し、大きな期待が寄せられました。しかし、注文時期にはムラがあるとのこと。年間を通じてムラなく製作できるように、今年の夏から**自転車のサイクルグローブの製作も始めました。**子供用のグローブのリクエストもあることから、子供用の試作にも取り掛かる予定です。

工房にはグローブ作りで出てきた端材が保管されています。「端材を最後まで使いきるにはどうしよかなって練っている。」そう語る鎌田さんは、シカ革に触れる導入口として、端材を使ったワークショップも今後行っていきたいと語ります。海外から注文が入るほど知名度が高まっているニセコグローブ製作所ですが、鎌田さんは「**地域のブランドになる**」ことを当面の目標としていました。

「ニセコグローブっていう名前で作っているのだから、ニセコで使ってもらえる人、地元で使ってくれる人をまず増やしたい。」

ニセコグローブを あなたの“相棒”に!

気になるニセコグローブのお値段は 2 万円～。カスタマイズのオプションによって値段が変動します。納期は約 1 か月。XS から XL までのサンプルがあり、実際に鎌田さんと相談しながら、サイズや型、色などを選んでいきます。

鎌田さんからのメッセージ 「みんな雪で遊ぼうよ!」

雪国の日本ですが、雪で遊ぶ人は減っています。「日本って昔から雪国なんで、雪で楽しむって一つの文化だと思うんです。だからどんどん新しい人に、若い人もそうですし、雪で楽しんでもらいたいなと思っていて。」雪に親しんでもらいたい一方で、手が冷たくて外なんて行きたくないと思う人が多いと感じた鎌田さんは「**みんなで遊ぼうよ、冬長いんだし。**」と誘います。

「山に来てもらえるようになれば、自然も目の前に見えて感じることも多くなると思うので、それこそ自然環境問題に対する感性だってもしかしたら研ぎ澄まされていくかもしれないし、それを意識する参加者が増えるかもしれないし、社会の中でもプラスのことだと思う。」

遊びを通じて自分の環境を見直すことも含めて、これからやりたい人の裾野を増やしていくこともスノースポーツ業界の使命。あなたも鎌田さんの作るニセコグローブで手を温めながら、ウィンタースポーツを楽しんでみてはいかがでしょうか？



作成：北海道大学文学院 博士後期課程 中村香音
教養深化プログラム ニセコフィールドスタディ

インタビュー日：2024 年 8 月 28 日